

日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.36

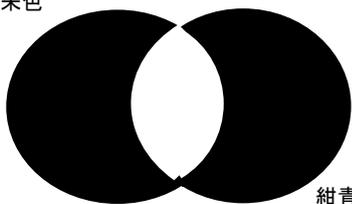
2007-2-3

일한 시민 네트워크 · 나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



紺青

目次

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. 巻頭特別寄稿 | 顧問：李尚勳 |
| 2. 事務局通信 | 統括幹事：後藤和晃 |
| 3. ニュース | 事務局 |
| 4. 会の活動報告とお知らせ | 事務局 |
| 5. 八曾の大自然に遊ぶ | 参加者の声 |
| 6. 会員の広場 | 会員の皆さん |
| 7. ソウル通信 | 坂野慎治 |

巻頭特別寄稿

お父さんの愛

顧問 李尚勳

日韓市民ネットワーク名古屋の皆様アンニョンハセヨ!



会が誕生してから9年、その間いろんなことがあったと思いますが、ここまで来られたことに事務局の後藤幹事をはじめ役員、会員の皆様には感謝申し上げます。誕生し、ヨチヨチ子供のように歩き始めたときは、色々不安もありました。しかし、年を重ねて行く内に形と方向性が見えてきたのを見て、喜びで一杯でした。一般的に人々は産物だけをみる傾向がありますが、強い根があったからこそ枝ができて実が結ばれたと思います。皆様の努力と犠牲、本当に感謝いたします。

私は、子供3人を持つ親として子供を育てながら親子の愛というものは何だろう、どうあるべきであるかを考えるようになりました。この場をお借り、皆様と一緒に考えて見たいと思います。

昨年2月13日会社に居った私に、1本の電話がありました。「突然の事故でお父さんが倒れ、意識不明だ」と家族全員を集めるよう医師の指示があったとのことでした。私は慌てて予約もしないまま、家族を連れて空港へ向かいました。車の中で、こぼれる涙をこらえることができず、無事であることを祈りました。3年ぶりにこのような形になって、訪ねて行く自分を責め続けました。私が4時間後、病院に駆けつけた時は、父は脳死状態でした。目を合わせることも、生まれて1歳半の次男をみせることすらできませんでした。

仕事でカサカサと太くなった父の手を握り、「お父さん私を許してください」と10時間をそのことばだけを心の中で叫びました。溢れる涙をこらえながら祈る気持ちでそばにいました。しかし、一度も目を開けることなく、体は硬く、冷たくなって行きました。その日の内息を引き取りました。

父は生前いつも朝 4 時には起床しました、いくら寒い冬でも子供達が寝ている内に、果樹園の肥料などを背負って山へのぼり、帰りは牛のための草を刈り入れ、ズボンなどが濡れて家に戻りました。その時は父は強くて寒くないんだなと思いました。休むことなく、精米所の仕事で、機械を修理したり、凍ったホースをお湯で溶かし、次の仕事に取り掛かりました。その時にも子供 4 人を外に呼ぶこともなく、母に頼ることなく、自分一人で仕事をこなせていました。朝、食事は食べる時間がないときもあって、食べてはすぐに畑や田んぼの仕事に出かけました。

私は日本に来て 17 年、父が日本に来たのは一度だけ、子供達に負担をかけさせまいとの思いもあったが、家にある仕事が心配だからとのことでした。

父が子供の頃から一緒に遊んでくれた記憶はありません。ただ、父は力強く、私が大人になっても言えばなんでも助けてくれる父でありました。外観的にも、空軍出身らしく背が高くハンサムだったので自慢できる父でもありました。しかし、機械で小指を失って、また、首の後ろに大きな水袋みたいなものができてかまもなく、子供のため尽くしてくれました。

父がなくなった後、果樹園のある山にのぼりました。みると、傾斜が激しい山の上の木の下には肥料が一袋ずつきれいに置いてありました。春を迎えるため、一人で全部運んで置いたものでした。子供達が勉強するときは学費のためにそうしましたが、77 歳になった父がなぜ、30Kg 以上あるものを 100 個以上一人で運び、そこまで仕事をしたか。生きていれば聞いて見たいところです。何のためそこまで、子供に何を残すためにそうしたか。今考えて見ると 4 人の子供が大人になって結婚し子供を生んでも、子供に見え、お父さんは安心できず、いつも助けることや自分自身が子供に負担をかけまいと、思

い、重荷を降ろす事ができなかったと思います。

今日も、会社から家に帰ると三人の子供が私を迎えてくれた。一番上の小学校 2 年生の長男は先週一緒にスキーに行ってきたばかりなのに、今週はボウリングに行こうと。再来週また、スキーに行く事になっているのに次から次へ攻めてくる。2 番目長女 6 歳は、肩にのぼりながら読んでくれと本を出す。3 番目の次男 2 歳半はボールを持ってきてボール遊びしようとして手を引っ張る。家内はお父さん食事してからと子供を叱る。叱られた 2 歳半はしょんぼりしている。それをみてあしたすべり台遊びに行こうと言うと機嫌を直す。私の手を引っ張って今公園へ行こうと言う。その時、隣の部屋では家内が長男の勉強を教えているから静かにと言っている。

亡くなった父は私に何を残そうとしたか、いまだにわからない、あんまりにも突然であったため、子供達に伝えたいことを伝えないうまま、先に天国へ行きました。永遠に言葉をかかわることができません。ただ、私がただ見て感じたもの、アガペ（ギリシャ語で真の愛、無条件的愛の意）の愛を受け継ぎ、子供を育てて行くことを決心しました。国を離れ 17 年生活しているが、私の心を休ませてくれるところがここにあり、また、心を通わせる友人が周りにいる以上、日本での生活は幸せだと思います。

最後に日韓市民ネットワーク名古屋の皆様、お父さん、お母さんから受け継いだアガペの愛を忘れず子に伝え、また、その愛が周りの人々まで満ち溢れますように、また、その愛が日韓交流にも繋がり両国市民が互いに助け合えることを願います。

日韓の理解を深めるために努力している会員の皆様に感謝の気持ちを申し上げます。感謝します。

※李尚勲(イ・サンフン)さんの横顔・・・事務局

李尚勲さんは 1963 年生まれで 43 歳、韓国 慶尚南道 固城郡の出身です。

名古屋大学経済学部で留学し 1997 年 3 月卒業。直ちに名古屋市国際センターの民間大使(韓国人初)として 1 年間活躍され、日韓市民ネット誕生の原動力となります。その後、韓国投資貿易振興公社を経て大宇ジャパン名古屋支社に就職、自動車部品担当課長として年々、業績を伸ばしています。家庭では韓国、馬山出身の奥さん朴景媛(パク・キョンウォン)さんとの間にお子さんが 3 人、長男の太権(テグン)君は日韓市民ネットが誕生した年に生まれています。

なお文中に登場するお父さんの名は李炯彦(イ・ヒョンオン)さんで、享年は 77 歳、炯彦さんは若い頃は空軍のパイロットとして活躍、退役後は故郷で精米商として裕福な暮らしをしていましたが、怠惰を厭い、農民としても日々汗を流す篤農家でもありました。

◎“継続は力なり”を確信！

～ 会発足 9 年目にソウル・大田で ～

去年の暮、07 年度の交流の展望を得るためソウルと大田を歴訪してきました。その間、9 年の間に顔なじみになった方々と出会い語り合う中で、“継続は力なり！”という言葉の正しさを実感できました。“継続は力なり”とは目標に向かってコツコツ愚直に努力すれば、いつか必ず成果が上がるという諺です。

それを先ず実感させてくれたのは、かつて名古屋で韓国人留学生会長だったチョン・トンソク氏でした。名古屋大学工学部で建築を学んだ彼は、日本の建築会社に就職後、留学生会を共に支えたイ・ウンギョンさんと結婚しました。建築技師として腕を磨いてきたチョン氏は今、ソウルの地下鉄建設の現場に派遣されています。ソウル市庁前のプラザホテルで久しぶりに会った彼は、第一級の建築技師としての自負に満ち溢れていましたが、礼儀正しさは昔のままでした。彼のこんな話には私はひきつけられました。「いま僕はソウルを流れる漢江の下を韓国で初めてシールド工法を使って地下鉄用のトンネルを掘っています。これまで韓国でのトンネル掘りは、昔の炭鉱と同じで、火薬で壁を崩し、つるはしで掘り進めるというやりかたでした。今、漢江の下を通っている何本ものトンネルは全て、この方式で造ったものなんです」「僕が手がけているシールド工法は、シールドという直径 7～8 メートルもある鋼鉄でできたモグラのような巨大な機械を使い、従来の数倍の速さでトンネルを掘ることができます」「シールドの機械は日本製を三台使っています。これがバカ高い機械で、なんと一台が 100 億円もします。三台ありますから、しめて 300 億円の機械を駆使して、僕は韓国人として初めてシールド工法で漢江の下を掘っているわけです。韓国人の建築関係者が毎日のように見学に来るので、僕もちょっと鼻が高いです！」

チョン・トンソク氏には去年、可愛い女の子が生まれました。この子が成長したら、両親同様、日本に留学させたい意向のようでしたが、その頃になるとチョン氏は、今 話題に上りつつある日本と韓国をつなぐ日韓海峡トンネルを掘っているのではないのでしょうか。交流の実りを実感できる出会いでした。



ソウルでは高麗大学の教授や卒業生の皆さん方とも出会い、有意義な対話をすることができました。

「高麗大学の学生たちに日本文化を現地で学ばせたいのです・研修旅行をする際、名古屋を訪問するのも良いかもしれませんね。できるだけ実現できる方向で考えてみましょう！」

これは教育学部のハン・ヨンジン教授の言葉でした。一方、韓国を代表する古代史の第一人者として著名なキム・ヒョング教授からは、身に余るありがたい話をいただきました。

「私ら夫婦が名古屋大学に交換教授として行っていた時、後藤さんのお宅で夫婦ともども一泊のホームステイをして関ヶ原の古戦場まで車で案内してもらったでしょう？あのお返しを、まだしていません。ぜひ奥さんともども我が家に一泊するよう遊びに来てください。車であちこちご案内もしますから…」と。

大田（テジョン）の韓南大学にも久しぶりに顔を出してきました。韓南大学は名古屋の金城学院に毎年留学生を送ってきていますが、彼女たちの支援を大田生まれの会員たちが行っていた関係で、私たちの会とは縁が深い大学です。ここでも大学の教授や留学事務の責任者たちからこんな話を聞いてきました。

「日本には協力校が金城を含め三校あります。ところが留学を希望する学生の多くが名古屋にぜひ行きたいと言うのです。名古屋には韓国と仲良くしている市民団体があって、楽しい韓日交流ができるという情報が流れているのです」

「ところが金城に正規に送れる交換留学生は毎年2人だけで、それ以外は全額私費の留学になります。私費留学は親にとっても大きな負担になります。それでも私費でいいから名古屋に行きたいという学生が今年は10人もいて本当にびっくりしているんです」「私費でと言っても金城側も余り人数が多くては受け入れ体制が大変でしょう。だから私費の留学生は4名くらいになりそうですが…」

名古屋の評判がいいのは、むろん大学や周辺環境、トヨタなどに支えられる好景気など多彩な要因があるのでしょう。しかし、その背景の一つに9年にわたって、韓南の留学生を支援していただいた会員の皆さんの努力があることは間違いがないようでした。金城の留学生の面倒を率先してみていた今は亡き中井康雄さんの霊に報告したい話題でした。

12月のソウル、大田は例年より暖かい陽気でした。しかし、それ以上に温かいぬくもりをソ

ウル、大田で出会った人たちの言葉の中に感じることができました。「継続は力なり！」との言葉を改めてかみしめながら、9年もの長い間、共に歩いていただいた会員の皆さん、さらに支援を続けていただいた方々に心からお礼を申し上げます。



このページは、新聞や雑誌あるいはホームページなど、当会に関係があるニュースを掲載しています。皆さんが、お気づきになったニュースがあればお知らせください。

◎ 法隆寺の大野管長が韓日歴史・文化フォーラムで講演

報告 広報主幹 鈴木一宇



世界最古の木造建築として世界遺産となっている法隆寺の大野玄妙管長が1月24日(水)名古屋市中村区の韓国会館で講演されました。

この講演は日韓両国の市民でつくる朝日歴史・文化フォーラムの発足2周年を記念するもので講演のテーマは「聖徳太子に導かれての日

韓交流」でした。「聖徳太子創建の法隆寺の大野管長の講和なら、ぜひ聞きたい！」と集まってきた日韓の市民は120人に及びました。戦後の民団社会に大きな貢献をされ日韓市民ネットワーク・なごやへの支援も続けていただいている鄭煥麒民団顧問を筆頭に梁東一愛知民団・団長はじめ幹部の皆さん、それに張永植韓国経友会会長、朴栄吉前会長など民団社会をリードする方々の顔も見えました。

講演の内容は①管長のご一家と在日の人々との縁(えにし)②法隆寺を建てた聖徳太子と三国時代の朝鮮との深いつながり③「和をもって貴しとなす」という聖徳太子の絶対的平和を希求する精神こそ、混迷を極める今の世界状況に最も必要とされるもの・・・の3点でした。

聴衆は大野管長の説得力ある話、それぞれ深い感銘を受けた様子でしたが、お話の内容を以下にもう少し詳しく紹介します。

①「法隆寺をお預かりしている大野です」との自己紹介で講演が始まりました。管長は法隆寺の僧で一旦、還俗された父上の仕事の関係で大阪猪飼野で誕生。生後3ヶ月のとき重い肺炎に罹られました。「ペニシリンを射たなければこの子は助からない」と言われたその時、困り果てていた両親に手を差し伸べたのが近くに住んでいた在日の人たちでした。「せっかく生まれてきた命だものペニシリンで助かるものならば・・・」在日のかたがたの暖かいカンパで、両親は、当時、高価で貴重なペニシリンを入手され、わが子の一命を取り留めることができたのです。(この体験が管長の韓国との交流活動の原点となっているようでした・・・鈴木のご感想です)その後、父上は法隆寺に復帰され第126代の管長に・・・爾来大野師は法隆寺に住まれ、やがて第129代の管長に就任されたそうです。

②聖徳太子と渡来人との交わりは深い。太子は高句麗から渡来した慧慈(エジ)、百済から来た慧聡(エソウ)から深く仏教を学びます。法隆寺の初代の管長ともいべき百済僧観勒(カンロク)は仏教だけでなく暦や天文、地理の学問までもたらし、一方百済の味摩之(ミマシ)は大和の若者たちに伎楽を教えます。聖徳太子はこのような法隆寺を中心に先進文化を一気に取り入れる総合プロデューサーの役割りを果たしたのです。三国時代の朝鮮と、とても親しい関係にあったからこそ聖徳太子はそれだけのことをなし得たのです。そのためか、いまでも韓国人の法隆寺への関心が高く、訪問客が多い。また中国の隋からも仏教の影響を受け、後の日本文化の礎を築いたという点で、太子を日本文化の父と考える。

③17条憲法1条では「和をもって貴しとなす」と和合の大切さが説かれ、また9条では

「信は是れ義の元なり」と信頼関係の重要性が指摘されている。これらの精神を世に広げ、全ての人が共に生き、真に平和を実感することこそ、混迷している今の時代に必要と力説され、講演を閉じられました。

講演のあと、大野管長はフォーラム主催の2周年記念パーティに出席され、およそ1時間日韓の市民と交流されました。奈良の有名な高僧とひとことでも会話したいという日韓の市民が列を作り、大野管長はなかなか飲み物も摂れない状態でした。それでも人々と気安く会話される姿に「さすがに一流のお坊さんは違うな!」と感嘆の声がしきりでした。

管長はパーティ終了後、日韓市民ネットワークの会員たちとの懇親会にも出席されました。この席には会の支援を続けていただいている中日新聞相談役の横内 恭さんや韓国人経友会の元事務局長の金龍鐘さんなども参加され管長と親しく会話されていました。超多忙な中、名古屋の日韓の市民のため時間を割き「日韓の交流をもっと前に進めよう!」という雰囲気をつくっていただいた大野管長に紙上を借りてお礼を申し上げます。



韓日歴史・文化フォーラム後の懇親会の席上寄付を頂きましたので、お知らせいたします。

横内 恭 様 ¥10,000

◎ 韓国郷愁の物語



家族とは、友とは、故郷とは、韓国人にとっての心の温もりとは？ 34編の韓国人の物語。彼らが第二次世界大戦後の 60 年間にどのように生きてきたのかを綴る。NHK ラジオ「ハングル講座」テキストの連載をもとに単行本化。著者は9年間にわたって私たちの会報にイラストを提供していただいている池貴巳子さんのご主人です。韓国を理解するためぜひ読んでみたい一書です。

下にこの本を読まれた方で、当会ホームページの交流館に書込みがあった感想文を紹介します。

日本放送出版協会
1, 365円

「読後感想」

会員 鈴木一宇

一読して池さんの生き様に圧倒され、古きよきものへの郷愁に同感しました。韓国戦争と民主化運動（この運動で4年半の刑務所生活）という厳しい時代を生きぬいてこられた池さんの体験談は圧巻です。

私は著者とほぼ同じ年齢ですが、一日本人として著者のような重い体験もなく60年を過ごしてきました、否過ごさせてもらいました。意味のない仮定かもしれませんが、「もし」自分が韓国人として生まれてあの時代に生きていたら、自分の精神が時代の重圧にどこまで耐えられたであろうか。

池さんが本著を書かれた動機は母国韓国への回想（郷愁）であり、「一連の時間の流れの中で、思い出されたことを書き綴った」とあります。

このことが重い体験を綴りながらも全体として暗くなっていないわけなのでしょう。同郷の金龍鐘さんは本書で「心の温もり」を読まれましたが、その点私も同意します。

戦場でアリランを吹く兵士、無私の社会奉仕をされたベルギーの神父、戦争によって離散した恋人たちの悲話・・・ひとつひとつの話に強く心を打つドラマが語られています。

私は本書に記された隣国事情がより多くの日本人に理解され、皮相でない韓流が形成されることを希望します。またこの本が韓国語（母国語）に訳され、著者と同世代の韓国人のみならず韓国戦争を知らない世代の人々にも読まれたらすばらしいし、また彼らはどんな感想をもたれることでしょうか。

「心の温もり」

会員 金龍鐘

5歳ほど私が年配ですが、同郷の郷愁を涙しながら読み終わりました。「ムーダン（巫女を呼んで神霊を祭るシャーマンの儀式）」、「竹岩の先生のおかげ」で想いだしたのは、2004年9月、ソウル延世大学で韓国精神科学学会と国際生命情報科学学会との共催の主題、「心と体」に関する国際会議の際、韓国の著名な電子工学者の案内で、ソウルで最も公認されているムーダンの見学をさせていただいた事です。

日韓市民ネットの交流会で感じたことは「心のかよい」が漂っていたことです。私は経済学を専攻していましたが、従来は経済学に「心」を導入する事はタブーでした。しかし、ここ数

年ノーベル経済学賞を見ますと三人ほど心に関することで受賞者が出るようになりました。

近代科学は宗教だけでなく心まで排除し、巨視的な物理学を完成しました。近代社会は工業化によって大きく発展しましたが、物だけが豊かになり心は廃れるばかりです。20世紀の初頭に新しい微視的な物理学が生まれ、現代物理学は量子物理学に取って代わりました。ここから今や心、意識の問題を模索しているのが21世紀の生命情報科学時代の所以です。古きよき時代の伝統ある心のありかを促す勇気ある著書が韓国のジャーナリストから教えていただいたような気がします。

◇ 会の活動報告とお知らせ

1.報告

1) “交流の夕べ”に笑顔, 集う!

暮れの12月23日、名古屋韓国学校で恒例の日韓“学生・市民”交流の夕べを開きました。この日は20人の留学生を含め、計74人もの労若男女（それに子供たちも）が集い、和気あいあいと日韓交流を楽しみました。

テーブルにはいつものようにボランティアコック長の中川修介さん（当会幹事）が腕を振った和・韓・洋の多彩な料理が並びました。その上、今回はなんとたくさんのクリスマスケーキまでが彩りを添え、参加者の皆さんは大満足の笑顔でした。さらに最後に行ったくじ引きコーナーでも、会員の皆さんから、ほほえましい賞品が机に載らないほど寄付され、射止めた人たちの歓声が、ひとしきり響き渡っていました。



なお交流の夕べにつきましては、事前の会報で「小額づつ寄付をお願いします!」と呼びかけたところ、会員をはじめ当会の顧問や協力者の方々にいたるまで多くの皆さんから、予想をこえる額の寄付をいただきました。

交流の夕べを実施した後にも、かなりの資金が残りましたので、これは07年度の交流事業に大切に使用させていただきます。寄せられた寄付の内容と行事の収支を報告するとともに、関係者の皆さんに心からお礼を申し上げます。



交流の夕べ 会計報告

1) 交流の夕べ 収支報告

収 入	会費			支 出	料理・飲物・器類	180,000	※差引残高につきましては、当会の活動資金として繰入れ、今後の交流活動等に活用させていただきます。
	会員	33名	99,000		会場の飾り付け	4,460	
	当日欠席	2名	6,000				
	会員外大人	7名	21,000				
	中学生	4名	4,000				
	小学生	3名	1,500				
	留学生	17名	17,000				
	寄付金（下記参照）		268,460				
	計		416,960	計		184,460	差引残高 232,500

2) 交流の夕べ に関わる行事の寄付金と差入れ (支援者名は敬称略、あいうえお順)

今回も沢山の寄付を頂き、深く感謝申し上げます。領収書を発行いたしておりませんので、記載事項に誤りなどございましたら、事務局までご連絡下さいます様、お願いいたします。

< 寄付金 (敬称略) >

池田 進	2,000	後藤 和晃	2,000	長澤 進	7,000	顧問・招待者 など	
伊藤 みつ子	3,000	堺澤 一生	3,000	長田 竹子	2,000		
伊藤 義郎	5,000	佐藤 昭子	2,000	夏目 玲子	2,000		
岩下 洋子	1,000	鈴木 一字	3,000	成瀬 一男	3,000	鄭 煥麒	50,000
鶴飼 満	5,000	鈴木 幸之助	3,000	野村 哲	3,000	横内 恭	30,000
梅田 徹	2,000	須田 奈保美	2,000	野村 博司	5,000	名古屋韓国学校	20,000
大久保 孝造	3,000	千 浩美	1,000	橋本 公子	3,000	李 尚勳	10,000
大久保 舜司	3,000	成 功	10,000	牧野 司	5,000	金 龍鐘	10,000
太田 道子	3,000	田口 良浩	2,000	増田 一夫	3,000	張 永植	10,000
大西 さおり	3,000	多田 敏雄	3,000	宮本 昌子	1,460	朴 美姫	5,000
大橋 幹夫	3,000	崔 崇浩	3,000	安田 守	3,000		
岡崎 洋子	2,000	土本 美恵子	3,000	山田 あき子	5,000		
加藤 勝	3,000	出口 和代	3,000	山本 玲子	2,000		
神谷 良子	2,000	土岐 良文	5,000				
小出 宣昭	2,000	中川 修介	2,000				
人員数	(会員 43 名 * 顧問・招待者など 7 名)				計 50 名	合計金額	268,460

< 差し入れ (敬称略) >

伊藤みつ子 (くじ引き景品)、大西さおり (ビール券 10 枚)、岡崎洋子 (日本酒)、小出宣昭 (千の風CD)、後藤和晃 (日本酒 3 本・くじ引き景品)、佐藤昭子 (竹炭豆 3 袋)、鈴木奈津子 (栗まんじゅう)、須田奈保美 (くじ引き景品)、出口和代 (お菓子 5 箱)、宮本昌子 (くじ引き景品)、山田雅樹 (キムチ)、韓国観光公社 (カレンダー)、(株)世邦旅行 (くじ引き景品)

2) 韓市民・大自然のつどい ～ 犬山市・八曾休養林 ～

交流の夕べに先立つ 11 月 4 日には、大自然が残る犬山市の八曾休養林で日韓の学生や市民の交流を行いました。当日はこれ以上はないという絶好の行楽日和となりました。集ってきたのは計 36 人、韓国側からは会の顧問の李尚勳さん御一家や韓国人経友会の元事務局長金龍鐘さん、それに留学生など 15 人が参加。一方日本側も子供から大人まで様々な世代の 21 人が顔を揃えてくれました。

参加した人たちはハイキングや川遊びで身も心もときほぐしたあと、バーベキューを楽しみました。この日も“コック長”の中川幹事はバーベキューからいも煮汁、サラダバーなどなど八面六臂の大活躍でしたが、もうお一人、目立った料理人がいました。それは国際センターの元民間大使をつとめた当会顧問の李尚勳さんの奥さん、朴景媛 (パク・キョンウォン) さんでした。パクさんは、なんと 40 人分ものチヂミの

材料を巨大な容器に入れて運び込み、額に汗しながらせっせと焼き上げていただきました。留学生たちも秋の爽やかな溪谷で食べるチヂミや焼肉に大満足してくれた一日でした。彼らの感想文が届いていますので、御紹介しましょう。



☆ ハ魯の大自然に遊ぶ参加者感想文

◎ キャンプ感想文

パク・ミギョン



私は始めてこの集まりに参加しましたが、何のための集まりなのかよく分かりませんでした。来てみて本当に良い集まりであることが分かりました。

美味しい食べ物と美しい自然環境そして参加した人達もとても親切でした。楽しいキャンプでした。機会があれば次回も参加したいと思っています。

◎ 感想文

アン・ミンヨン

今回のキャンプは短い時間であったが温かい人達と出会ったことが良かったです。日本にも韓国に関心のある人が多いとは思っていたが実際に会ってみて感じられたことをうれしく思います。

料理も美味しく街から離れ閑静なところで心と体を寛がせたことが良かったです。これからも留学生と日本人との交流が活発になればいいですね。



◎ キャンプ感想文

チョ・ヨンヒ（金城学院）



日韓市民ネットワークなごやの人達と一緒に参加した焼肉パーティは忘れられない思い出になりました。このような機会がないと会うことが出来ない人達とお話が出来たことは良かったしお互いの国を理解できた場になったと思います。

これからも両国の間に友情と心を分かち合う機会が多くなればいいなと思います。

ある日、イ、ジョンベさんに誘われ参加した日韓ネットワークのイベントは私のような日本人の知り合いのない留学生にとっては新鮮な経験でした。沢山の日本人の方々に出会って、色々な話も出来て勉強になったような気がしました。自分が、これまでに耳にした日本、見た日本とは違う日本を知って「やはり引きこもっていては駄目だな」と思いました。残念なのは前日あまり寝ずに行ってハイキングに参加できなかったことです。秋の山の景色はきっと素晴らしかったでしょうね。でもハイキングチームが戻る前にやったバーベキューの準備もけっこう面白かったです。家にこもって1人寂しく食事をつくるより皆とすればこんなに楽しいものなんだと痛感しました。これからの日韓ネッ

トワークの会も楽しみにしています。



◎ 感想文

牧野 ひとみ

いつもお世話になっています。今回とても素敵な休日をありがとうございました。日韓市民ネットワークの活動に参加することは、私にとって、国や国籍、文化について考えさせられる、とてもいい機会です。この貴重な経験をこれからも積み重ねていけたらと思っています。

なお大自然の集いでも寄付がありましたので、最後に御紹介しておきます。

< 寄付・寄贈品 >

後藤和晃	¥8,000	+ 野菜・お菓子
中川修介	¥8,000	
間宮和之	野菜・サラダ	
伊藤みつ子	アウトドア用名札	

3) 中学生の総合学習に協力～僕たちも韓国にもっと関心を持ちます！！～



去年の11月21日、中学1年生のグループが「総合学習」の一環として「国際交流」をテーマに選び、「日韓市民ネットワーク・なごや」の活動を取材したいと事務局までやってきました。

一昨年は事務局が住んでいる江南市の中学生たちが取材に来たのですが、去年訪れてきたのはなんと江南から数十キロも離れている安城市の篠目（ささめ）中学校の1年生たちでした。インターネットで国際交流に関するホームページを探すうち、私たちのホームページにたどりついたというのです。

彼らが国際交流をテーマに選んだ背景には、

三河地方の各市町村ではトヨタ系企業で働く外国人が急増しているという事情もあるようでした。

ともあれ安城の中学生が往復 1600 円もの交通費をかけて、はるばると話を聞きに来てくれたのは感激ものでした。

生徒たちには、先ず会創立のいきさつや現在の活動状況を紹介しました。創立してから間もなく 10 年目を迎えること、会員は 100 人余で日本人が 90 パーセント以上であること、会員の多くが「日韓は 2000 年をこえる歴史的な係わりが

ある間柄だ！」と考えていること、そして「その古い絆のある韓国の人々と交流を深めたい！」と考えて行動していることなどです。生徒たちは 1 時間半の間、熱心に耳を傾けてくれ、この日から一週間の後に下に紹介する礼状を送ってきました。

内容を読むと説明にあった事務局への感謝の言葉が多く、文面をストレートに紹介するのはいささか気が引けます。しかし中学生になったばかりの若い人たちが、日本と一番近い隣国・韓国との国際交流に関心を示してくれたことが嬉しく、四通の便りを紹介させていただきます。

～ 日韓市民ネットワーク・なごやの後藤さんへ ～

安城市立篠目中学校一年 高木 ※ 以下 姓だけ紹介します

2006 年 11 月 21 日の取材は本当にありがとうございました。日本と韓国の関係や交流方法などがよくわかりました。写真や絵、資料などで説明してくださって、とても分かりやすかったです。

驚いた事や改めてすごいと思った事がたくさんありました。近くの国なのに、市民交流をやっているグループは全国を探しても、数少ないと

いう事も驚きでした。

また、江南市という遠い所にも自分たちだけで行けたという達成感も味わえました。

これからも韓国の人との交流をがんばってください。B 紙にまとめたものは後日送ります。

安城市立篠目中学校 一年 柴田

先日は僕たちにとっても分かりやすい説明をしてくださり、有難うございました。いろいろ学べて、今後の総合的な学習に大いに役立つと思います。

僕は後藤さんのお話で一番興味深かった事は、最初に紹介して下さった新羅からの皿や壺についてです。僕は前からこういったすばらしい物を見た事ありません。ですから今回見た物が

初めてでした。とてもいい経験をしたと思います。

他にも日本に古くから住んでいた縄文人の頭骨と弥生人の頭骨の形が全く違うという話に興味を持ちました。同じ日本にいたのに、なぜ骨の形がちがっていたのかももっとよく調べたいと思いました。

安城市立篠目中学校 一年 小幡

先日は僕達に分かりやすい説明を有難うございました。僕は古代の外国の焼き物を初めて見ました。すごく価値がありそうな物ばかりでびっくりしました。日本と韓国との関わりの深さがよくわかりました。

一番驚いたのは、後藤さんが 55 歳になってから韓国語を覚えたということです。僕は 50 代を超えてから外国語を覚えるという人はあまり聞

いた事ありません。すごく大変な事だと思います。なので後藤さんは本当に韓国に対する気持ちが強いのだと思います。

歴史の本が図書館の様に沢山あり、びっくりしました。歴史にそれほどの興味がないとそろえられないと思います。本当に日韓の事がよく分かり、良い経験になりました。

有難うございました。

安城市立篠目中学校 一年 稲垣

先日はどうもお忙しい中、ありがとうございました。おかげさまで日韓市民ネットワークのことをたくさん知ることが出来ました。これから、もっといろいろなことを調べて行き、日本と韓国との関係を知りたいです。
日本とアジアはあまり親しい仲ではありません

んが、これからの日本とアジアの関係を深めて行ってほしいと思います。
これから寒くなってゆく時期ですが、お仕事がんばってください。
ありがとうございました。

日韓市民ネットワーク・なごやでは、今年度も中学生の総合学習には積極的に協力していこうと考えています。もし私たちの活動に関心を示す中学生がいる場合は、「会の事務局に申し込めば、基本的には協力するはず」として、連絡先を教えてやってください。

※ 連絡先 TEL : FAX 0587-56-6788 後藤 和 晃方

2.お知らせ

1) 07年度の会費の納入をお願いします！

例年2月は会費をおさめていただく季節です。会報とともに会費の振込用紙を同封しますので会員の皆さんは3月半ばまでに会の口座あて郵便局から振り込んでいただくようお願いします。

2) 第10回総会を開きます！ ～3月21日・祝日～

発足いらい9年が経過し、こんどの総会は10回目を迎えます。

開催の時間や場所、内容などは再度、2月末にご案内することとし、その際、出欠を問うハガキも同封します。今号では1年前に決まっている総会の予定日を前もってお知らせしますので、会員の皆さんは日程の確保をお願いします。

3) “渡来人の里”紀行を実施へ ～3月16日から18日～

去年9月から10月に実施した“高句麗・旧満州”紀行は大変、好評でした。

会報で旅行の感想文を読んだ会員たちから「あゝいう内容の旅と知っていたら私も参加したかった！」という声があいつぎましたが、なかなか会員一人一人に旅行の内容を詳しくお知らせし参加の有無を問うことは出来ない悩みがあります。

今回は前回の旅を受け、渡来人の中でも高句麗系の足跡が濃い関東地方に日韓交流の原点をたずねます。ただし参加の申し込みはすでに27人にも達しており、募集を打ち切っていますのでご了承下さい。

4) 新会員紹介

前回の会報編集以降に入会された方で、1月26日までに受付完了されている方々です。(敬称略)

深見 茂

회원 마당

会員の広場

◎ 世界の経済大国 韓国

会員：林清重

韓国が大好きで、何時もソウルばかり、10回程行っています。昨年3月、初めてプサンに降り立ちました。すると、空港でとても大きな看板が目飛び込んできました。

“プサンはアジアのハブ港を目指す”というものです。“インチョンがアジアのハブ空港”を目指していることは、前から知っていましたので、なるほど、互いに海と空で頑張るのだなと、思いました。それにしても、韓国は不況といわれながらも、日本よりも遥かに意気軒昂と、その時は、大して気にも留めませんでした。

そして、ヘウンデのホテルへ向かいました。渋滞続きの高速度道路、滑走路を思わせる何車線もある大通り、群立する大ホテル、24時間営業のマンモススーパー、風光明媚な海辺には巨大な「広安大橋」、物と買い物客に溢れるチャガルチ市場と、数限りない大型船が出入りし、超大型のクレーンが忙しく動き回るプサン港。経気が低迷していると聞いていた韓国なのに、それでもこれだけの活気があると、少々驚いてしまいました。

翌日、訪韓の度にお世話になっている、ガイドさんのお母さんが、ご馳走して下さるとのことで、全羅南道順天市にある、ご実家へ伺うことになりました。プサンから光州に通じる高速道路を、バスで向かったのです。

しばらく行くと町並みが途切れ、日本と少しも変わらない里山になりました。すると、その大きさからして船積み用とおぼしき、コンテナの山が現れました。山裾から高速道路までの幅数百メートルに渡って、整然と並べてあり、トラックが積み下しをしています。どうやらコンテナ基地のようです。詳しくは分かりませんが、プサン港からは、十キロ以上離れていると思われる所から始まり、バスが高速で何十分も走り続けて、やっと途切れたほどの、延々と続くコンテナのベルト地帯でした。そのあまりの数多さに、本当にびっくりしてしまいました。

ハブ港としての繁栄ぶり、貿易規模の大きさ

など。目覚ましい発展を遂げている様子が、よく分かりました。韓国には関心も深く、ある程度分かっているつもりでいたのですが、その底力に、改めて認識不足を思い知らされました。

帰国してから、“韓国は世界第11位の経済大国”というラジオを耳にし、なるほどと納得した次第です。それは確か、韓国社会学専攻の、日本のどこかの大学教授の解説でした。

G7（ジー セブン）という国際会議があるが、G11（ジー イレブン）があれば、韓国が参加することになる。経済力はアジア第3位、ロシアより大きい。GDP規模順位 2005年：1米、2日本、3ドイツ、4中国本土、5英、6仏、7イタリア、8スペイン、9カナダ、10ブラジル、11韓国、12インド、13オーストラリア、14オランダ、15ブラジル、16ロシア。

人口：韓国（4,814万人）、北朝鮮（2,274万人）、《韓半島合計（7,088万人）》、日本（1億2,776万人）。ヨーロッパ各国と比較すると、ロシアを別格として、ドイツに次ぐ人口を有する。ロシア（1億4,281万人）、ドイツ（8,263万人）、フランス（5,999万人）、イギリス（5,941万人）、イタリア（5,757万人）。

面積：韓国（10万平方Km）、北朝鮮（12万平方Km）、韓半島合計（22万平方Km）《日本の本州から、青森県を差し引いた面積とほぼ同じ》。日本（38万平方Km）、フランス（55万平方Km）、ドイツ（35万平方Km）、イタリア（30万平方Km）、イギリス（24万平方Km）。韓半島合計ではイギリスに匹敵。人口、面積でも、ヨーロッパの大国と比較して、決して遜色はない。

以上が大まかな放送内容でした。

そこで、既にご承知の事柄かもしれませんが、日韓を主にした、社会背景を比較するデータを探してみました。

●自国民であることの誇り（‘00）60カ国。
「非常に感じる かなり感じる」が高い国、途上国ではイスラム諸国。主要先進国では、90%台（米、カナダ）、80%台（イタリア、仏、英）、70%台（韓国、中国）60%台（ロシア、ドイツ）。低い国として、50%台（日本）。

●もし戦争が起こったら国のために戦うか（‘00）。
ベトナム（94%）、米（63%）、中国（90）、イタリア（52%）、フィリピン（83%）、仏（49%）、韓国（74%）、スペイン（37%）、インド（74%）、ドイツ（33%）、ロシア（64%）、日本（16%）《日本は戦争放棄の憲法があり、単純比較は無理》。

●自然観、社会観の国際比較（‘00）。
○自然観「自然は、共存すべきか、支配すべきか」、共存すべきが高い国：日本（96%）、スウェーデン（94%）、韓国（93%）、米（84%）、中国（56%）、ベトナム（50%）、フィリピン（50%）
○社会観「良好な人間関係のため、相手の理解が重要か、自己主張が重要か」理解が重要が高い国：ベトナム（80%）、日本（77%）、韓国（76%）、米（73%）、中国（60%）、ベネズエラ（38%）。低い国では、セルビア・モンテネグロ（35%）。《日本・韓国は自然観・社会観とも「共存」の意識が特に強く、同様の価値観を有す》

●学力の国際比較（‘03）
○読解力。1位：フィンランド、2位：韓国、3位：カナダ、4位：オーストラリア、6位：ニュージーランド、8位：スウェーデン、10位：香港、14位：日本、18位：米、32位：ロシア。 ○数学的リテラシー。1位：香港、2位：フィンランド、3位：韓国、4

位：オランダ、6位：日本、7位：カナダ、28位：米。

○科学的リテラシー。1位：フィンランド、2位：日本、3位：香港、4位：韓国、6位：オーストラリア、10位：ニュージーランド、22位：米。

○問題解決能力。1位：韓国、2位：香港、3位：フィンランド、4位：日本、5位：ニュージーランド、7位：オーストラリア、29位：米。《韓国の健闘ぶりが目立つ》

●人間開発指数（経済万能主義は誤りだとして、それに代わる発展の指標として考えられた）

○一人当たりGDP、平均寿命、教育、という3つの指標の合成指数で幸福度とは必ずしも一致していない。高い国から、1位：ノルウェー（96）、2位：アイスランド（96）、3位：オーストラリア（96）、7位：日本（95）、6位：米（95）、16位：仏（94）、17位：イタリア（94）、19位：英（94）、21位：独（93）、22位：香港（93）、25位：シンガポール（92）、26位：韓国（91）。低い国は発展途上国が目立つ。

●親しみを感じる人の割合（日本人が韓国、中国、米に対して）（‘06. 10）
米に対して：75%、韓国に対して：49%、中国に対して：34%。

●合計特殊出生率（一人の女性が一生に産む子供の数）：米（2.05人）、仏（1.90人）、デンマーク（1.78人）、スウェーデン（1.75人）、イタリア（1.33人）、日本（1.26人）、韓国（1.08人）。《韓国の低さが目立つ》

●学校教育費の	対GDP比	公的支出	私費負担
1 アイスランド	7.4 %	6.9 %	0.6 %
2 米	7.2	5.3	1.9
3 デンマーク	7.1	6.8	0.3
4 韓国	7.1	4.2	2.9
5 ノルウェー	6.9	6.7	0.3
13 仏	6.1	5.7	0.4
14 英	5.9	5.0	0.9
20 ドイツ	5.3	4.4	0.9
24 日本	4.7	3.5	1.2

（韓国は学校教育費率が高く、私的負担も大きい。教育熱心ぶりがうかがえる）

●日韓の旅行客数	(' 0 1)	(' 0 2)	(' 0 3)	(' 0 4)	(' 0 5)
日本から韓国	2 3 8 万人	2 3 2 万人	1 8 0 万人	2 4 3 万人	2 4 4 万人
韓国から日本	1 1 3	1 2 7	1 4 6	1 5 9	1 7 5

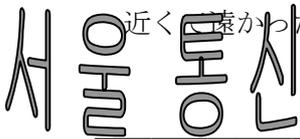
(日本からは横ばい気味、韓国からは右肩上がりで増えている)

●国別外国人登録者数

	(' 9 1)	(' 0 4)	(増減数)	(倍率)
総数	1 2 1 . 9 万人	1 9 7 . 3 万人	7 5 . 5 万人	1 . 6 倍
韓国・朝鮮	6 9 . 3	6 0 . 7	- 8 . 6	0 . 9
中国	1 7 . 1	4 8 . 8	3 1 . 6	2 . 9
ブラジル	1 1 . 9	2 8 . 7	1 6 . 7	2 . 4
フィリピン	6 . 1	1 9 . 9	1 3 . 8	3 . 2
ペルー	2 . 6	5 . 6	2 . 9	2 . 1
米国	4 . 2	4 . 9	0 . 6	1 . 1
その他	1 0 . 5	2 8 . 8	1 8 . 3	2 . 7

(6カ国中で、韓国・朝鮮が唯一減少している)

この様に、韓国と日本は、価値観も経済的にも、さほど大きな違いは無いと思います。
 近く、遠かった国が、近くて近い国になることを願っています。



韓国ソウル市在住 坂野慎治さんのソウル便りです。

韓国 在住生活を基盤として幅広くご活躍されておられるレポートです。
 今後とも期待しております。

○ 地方空港の明暗 清州空港と襄陽空港

韓国ソウル市在住 会員 坂野慎治

(梨花女子大学・通訳翻訳大学院講師)

早いもので今年もすでに 12 分の 1 が過ぎてしまいましたが、旧暦で正月を盛大に祝う韓国では、今年 2 度目の新年を迎えようとしています。今年の旧正月は 2 月 18 日の日曜日。旧正月は三連休になりますが、振替休日はないので、今年の休みは土・日・月曜日だけです。休みが短いので、今年は特に帰省ラッシュで高速道路が渋滞し、列車や飛行機の座席確保も難しくなりそうです。

このように韓国でも帰省ラッシュが激しいので、旧正月のテレビ番組では毎年、ソウル駅や金浦空港から地方に向かう人たちが紹介されますが、今年は清州空港も登場するかもしれません。清州空港は韓国中部の忠清北道にある空港で最近、利用者が急増しているためです。

清州空港は 1997 年に開港しましたが、就航便も利用者も少なく、他の地方空港と同じように

厳しい状況が続いていました。韓国の面積は日本の約 3.5 分の 1 と狭い上に、韓国の新幹線「KTX」の開通もあって、地方空港はどこも大変です。ところが清州空港は、ここ数年で中国とフィリピンへの国際線が就航し、利用者も増えて活気を帯びています。このように利用者数が増えている理由は、なんと言っても安さです。清州空港の着陸料、照明料、夜間停留料などは、仁川空港より 50~75% も安いので、運賃も安くすることができるのです。例えば昨年のウランバートル便は、仁川空港発着便は 65 万ウォンでしたが、清州空港発着便は 40 万ウォンと安かったため大人気でした。また、清州はソウルから 1 時間半、人口 130 万人の大都市・大田から 30 分と、地の利にも恵まれています。

清州空港の国際線定期便は現在、中国の上海・瀋陽・杭州・深圳、フィリピンのマニラの 5

路線で、日本の熊本や中国の北京・広州・延吉などの便も就航する予定です。国際線の利用者数は2006年1～9月に10万6000人と、前年同期間に比べて48%も増えました。これは2000年の4倍にあたる利用者数で、今年は路線の拡大によって3倍増を見込んでいます。国内線の利用者数も2005年に75万6000人と2000年の2倍に増えて、週末の済州島便は空席がないほどです。

しかし、このように活況を呈している地方空港は例外で、他の空港の中には存続が危ぶまれているところもあります。例えば、2002年に開港した江原道の襄陽空港は、国内線の金浦便と

金海（釜山）便が1日に1～2便就航しているだけで国際線はありません。搭乗率も低く、去年の金浦便は40%、金海便は33%と、1便あたり30～40人しか利用者がいませんでした。襄陽空港は、スキー場やゴルフ場の多い平昌郡に近く、ドラマ「冬のソナタ」のロケ地となった竜平リゾートスキー場へも1時間で行くことができるため、2年前には国際チャーター便もありましたが、今ではまったくありません。

襄陽空港を活性化させるためには、平昌郡が冬季オリンピックの招致に成功するしかないように思われますが、「韓流」のような一過性のイベントに終わらせない魅力が必要でしょう。

（事務局から）

ソウル便りを長い間送っていただいた二日市壮さんが帰国されたため、今号から坂野さんの担当に代わります。坂野さんは二日市さんと比べると年齢がかなり若いので前任者とは全く違った視点からのソウル便りになると期待しています。

この坂野さんがどんな人なのか簡単に紹介しておきましょう。愛知県東海市の出身で東京の神田外語大学・韓国語学科を卒業したあと韓国外語大学の通訳・翻訳大学院に留学し、現在は同大学の講師に就任されています。そのかわら2003年からNHKラジオ・深夜便のワールドネットワーク中のソウルレポートを担当しています。去年、韓国人女性のキム・スジョンさんと結婚、写真は結婚式でのお二人です。



編集後記

(2007/1/26)

会報 No. 36 をお届けします。昨年は日韓の話題より、北朝鮮関連のニュースが世間の注目を浴びましたね。さて、今年はどうなるのでしょうか？ 当会のホームページの交流館では、韓国の今年の干支の豚、特に今年は60年ぶりの金豚と言うことで、年明けから賑やかな書き込みが続いております。韓国にとってはとても縁起の良い年として、韓国人はいつも以上に元気な年になりそうです。日本はどうでしょうか。また金豚が日韓関係においても縁起の良い年となるのでしょうか。日韓市民ネットワーク・なごやも今年どうなって行くのか楽しみです。

池貴巳子さんのイラストは、NHK ラジオ講座 1996 年度から、韓国の古典を題材としたものです。

編集：早川 潤 〒472-0002 知立市来迎寺町木ノ根田 10-4
TEL/FAX 0566-82-5466 MAIL junhykw@pop12.odn.ne.jp